

翻
刻

『稲葉
佳景
無駄
安留記』

八上郡

一、私に句読点、濁点を加える。原本のどこどこに濁点が増えられているがそれらとの区別はしない。

一、漢字・仮名とも、原則として現在通行の字体に統一する。

一、文字の大小の比率、配置は原本と異なる。

一、改行は原本のままとする。

一、絵とその題を四角の枠内に掲げる。配列は原本に従う。絵に書き加えられている説明のうちの主なものも枠内に記す。

八上郡

【下三七裏】

同 曳田郷散岐村 大義寺に武田美作守高信位牌ヲ安ず。
此寺にて自滅せし也。



同 美飛泉 八上郡北村より登る順途なり。人みだりに
登りてたゞり有し由。今ハ禁制す。

八上郡 曳田邑 売沼神社 祭神矢上姫の命
是神世よりの鎮座。

大己貴尊の鼠と云者を仲人にて娶たまひし女神なり。
社頭ハ岡上にして晴やかなり。故事ハ因幡志詳。

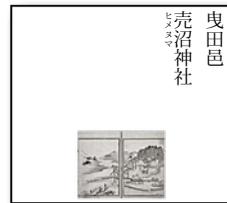
仲人の鼠も今ハ通ふまじ
岸の柳の猫におそれて

同 正法寺 弘法大師靈驗あり。堂宇美麗にして
寂々たる梵宇なり。昔ハ諸人群参せし由。

御名を呼ぶ芋と稗とのなき年は
何を曳田にとりて空海

邑美郡

和銅年中



同 靈石山最勝寺 真言宗京仁和寺末 元三大寺開基

境内 蒲冠者範頼公古墳。山腹の田圃の側に在。
遺物 太刀。鎧の類。馬具。本尊薬師如来 行基作。

鎌倉の闇を凌ひて郭公

片山蔭の月に啼なり

境内 水神社 当山氏神。石神門有。 荒神社ハ山上森の中。

境内 神の御子石 裏山端の方松樹の下に在。神代より伝。

山風を谷間のすゞに音たてゝ

雲の袖ふる神のみこいし

遺物 紺地金泥大般若経 範頼自筆。

什物 大般若経 五十巻。 十六善神像 唐惠果。 灌頂宝冠。 鉄鉢。

十六善神画像ハ密画なり。 極彩色経卷ハ慈恵大師筆。 尤古物なり。
宝冠ハ今五片残れり。 又金焼付地紋有。 同鉄鉢 庭朽たる尤古物

彼食米を炊し物故哉 最古雅なり。蒲公法名頼賢自筆般若経

金龍にて写たる二枚。太刀ハ無銘一振遺す。先年瑞徳院慶那卿の時

有銘の太刀一振祐ノ字下ウカブリを献じたりと云。古燈一螺点古鞍など

遺れり○又明治九丙子七月末に蒲公御墳の石垣崩て是を筑

改む時中より如意輪観音の銅像を掘出せり。丈三寸計。是公の守

本尊なりしにや衆尊信す。又此山裏ハ東方ノ裾に五六尺計の岩

ニツ立たる処弁財天とて今年夏衆人群参すること数千万な

りける。米岡より出茶舎両三家其外にも夥しく賑ふ。神の御冠

石ハ河原村の方西山の半腹に大石見ゆる物なり。樹ハ枯てなし。

慈惠大師ハ今明治九丙子年迄凡八百九十五年也。是元三天師なり。

又蒲殿当寺江潜居の時、討手として梶原等来る時、この山下にて

鮪の頭を焼て火葬ニ託したるは是建久四年。今年迄凡六百八十

年計。又境内糸桜ハ村豪農三木某庭中に糸桜の大株有。

是本ハ当寺の種なる由を伝て、後に頃ニヤ、又当寺江若種を

植ツキ継しものなりと。又紅楓モミヂの老株ニノベ偃たるものあり。偕又蒲公の

御子孫相続て国侍ニも吉見氏を号し出雲にも在。皆天正之

年間迄も武名あり。巨濃郡岩常二上城ニも在し由。是太平記

古書帖も年経盗難火災に度々遇ふ故、咸々滅亡して口碑

のみ残るぞ惜むべし。

八上郡

同 片山八幡宮 八東川傍に鎮座。

境内 糸桜樹 中春花全盛。最も面白し。国中最一の

老樹は枯て今ハなし。若樹漸繁茂に及ぶまでなり。

賤やしづ賤の小手巻まき戻せ

今もむかしの糸桜見む

八上郡

同 百井邑慈住寺廢址天正ノ兵。火ニ燒失。今ハ草庵ばかり。田圃の中に礎

残れる外物なし。憐べし。昔の残れるハ木啄鳥の木魚を

ならせる鳴の看経のみなり。

跡とえば鳴のかんきむ木つゝきの

寺おこなひぞあはれなりけり

同 大江郷 虎石山能引寺

虎ヶ石 境内篁の中に在。是曾我十郎祐成妾虎女ガ

古墳也。其頃此地に竄住したる由。因幡志詳。

法花水 一字一石の法花経を書写して経塚を建立したる

最勝寺山

境内糸桜紅葉名株



鐘ハ寛文 亥

冶工鑄物師町辻和泉守也

如意輪観音像ハ銅歟

明治九丙子七月蒲公墳壞

而出ル。三寸計是守本尊也

片山八幡宮



百井慈住寺跡

医王山

大安興寺



址なり。

鎌倉の春を見捨ていなばなる

大江の奥に花はちりけり

八上郡

同 釜口村 医王山大安興寺 往古ハ大伽藍なりしが天正の兵火

焼亡。今僅に仁王の眼玉古茶釜あり。此茶釜故ありて他のもとに在しが夜毎に帰んことを悲しみて呼ぶ。主恐怖して寺にかへすと。奇談なり。此地寂寥として閑静の境内なり。

桜花何処仁王の眼の玉が

はなならとのみみないわう山

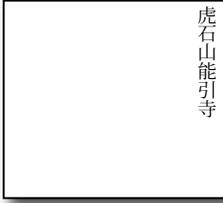
同 柏山善南寺とて往古梵宇の趾に近年草庵を建て弘法大師

を安堵する。参詣多し。此後ろの柏越の右の山に木葉石あり。

佐夜姫の真そを時雨に落葉して

何時イツの世かゝる石となりけむ

同 医王山の衆徒の古墳 田中に五輪数多あり。天正の兵火に死亡す。



柏山善南寺

虎石山能引寺

○木葉石 八上郡郷原山奥土中より出ル。又・・郡釜ノ口柏谷よりも出る。予も所持せり。又伯州美德山のもとにてしのぶ形の紋石出る。是咸ミナ往古深谷茂林シンコクモリンの久しく土中に埋れし化石也。ウモクワセキ

【拾遺 八五裏】